

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
令和3年9月号



温度管理を徹底した新出荷場による販売強化

安房農業協同組合 営農販売部
部長 福原 義和

1 経過

JA安房神戸支店管内は、安房地域で唯一野菜指定産地とされている「かんべレタス」と花き栽培が盛んである神戸花卉(ストック、トルコギキョウ他)、西岬花卉(ストック、ひまわり等)の2組合があり、野菜、花きいずれも共撰共販体制が確立していながらも出荷場は別々でした。両施設とも、老朽化による施設内の温度管理が不十分で近年気温の上昇に対し暑熱対策が大きな問題となっていました。

このため、諸問題を解決するべき対処方法として地区内農産物出荷体制の合理化、温度管理の改善を目的とした野菜、花きによる共同の集出荷場の建設を行うことになりました。

出荷場名称 JA安房神戸支店園芸振興拠点センター
(野菜・花き集出荷施設)



2 出荷場での新たな取組として

1. 夏の高温対策として場内に保冷エリアを設け開閉式シートシャッターを設置し、スポットエアコン3機で保冷保管します。このことにより、花き連日出荷が可能となるため2日前出荷の対応ができ、産地情報をいち早く発信することにより有利販売が展開できます。
2. 神戸花卉、西岬花卉共同出荷となるため市場等の要望、要求が今まで以上にえられるため大型花き産地としての位置づけとなりました。

3. 労力軽減とレタス面積拡大を目的として新たに出荷調整作業をJA側で行う体制を構築しました。
4. 施設を有効利用とした他の農産物取扱いの拡大に繋がります。

【主な設備として】

- ・真空予冷庫 (1チャンバー3パレット)
- ・予冷庫 15坪×2棟 (野菜、花き)
- ・保冷機 3機 (スポットエアコン)



3 今後の展望

令和3年1月19日から新出荷場での運用を開始し、花きは連日出荷が可能となり大きな転換期を迎えました。出荷までの作業効率が上がり適時に調整ができるなど、農作業全般にわたり労働力改善ができました。

野菜についても、高齢化が進む中JAでの調整作業を依頼することで継続した農業に従事できることを期待しています。併せて地区内基盤整備を進め持続可能な農業づくりとして地域を上げて取り組んでいます。





黒星病防除を支援する「梨なびアプリ」の開発

千葉県農林総合研究センター 最重点プロジェクト研究室
主任上席研究員 鶴岡 康夫

ナシ黒星病の防除判断を支援するため、スマートフォンなどの端末から簡単に利用できる「梨なびアプリ」を開発しました。このアプリを利用する事により、ナシ黒星病の農薬散布時期の判断が適切に行えるようになります。

1 はじめに

ナシ黒星病は、果実に感染すると裂果を引き起こし減収となるなど、重要病害となっています。生産者は、ナシ病害虫防除暦や長年の経験を活かして防除を実施しています。しかし、近年の温暖化に伴う気象変動により、適切な防除時期の判断が難しくなっています。

2 「梨なびアプリ」の概要

農林総合研究センターでは、総務省の事業を活用し、民間企業と協力して、スマートフォンやタブレットなどの携帯端末を用いてナシ黒星病の防除を支援する「梨なびアプリ」を開発しました。このアプリは、ほ場に設置した気象センサや県内各地のアメダスの気象データを自動で取り込み、これらを基に黒星病感染危険度を推定します。

(1) 必要な情報をカレンダー表示

「梨なびアプリ」のメイン画面は、カレンダー表示となっており、登録したほ場の薬剤散布日、黒星病に対する薬剤の残効期間、黒星病感染危険度が色分け表示され、一目で分かるようになっています。さらに過去の天気情報、週間天気予報も表示されます。また、防除に関する作業記録をメモ機能で残すことができ、過去の天気や感染危険度なども「振り返り」

できるので、病気が発生してしまった場合は要因を分析することができます。

(2) 農家間でアプリを共有

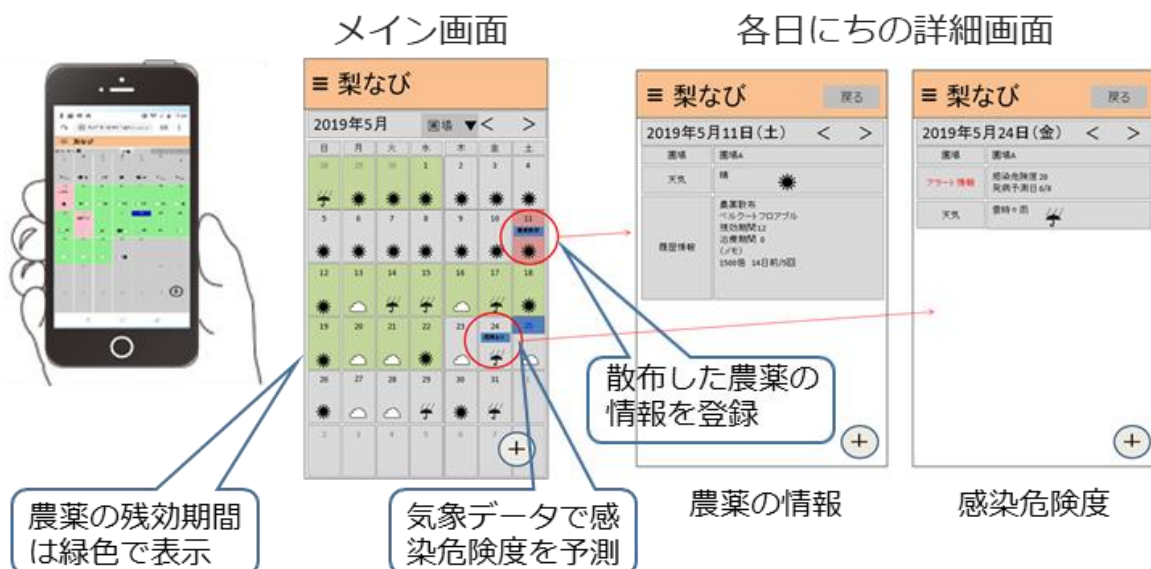
地域の研究会、組合支部などでグループを作りIDを共有すると、それぞれが登録したほ場の画面をお互いに見ることができます。周囲の生産者やベテラン生産者が使用している薬剤の種類や防除タイミングが分かり、参考になります。

こうしたアプリの機能を継続して利用することにより、防除技術の「見える化」ができ、よりの確な防除や、後継者への防除技術の円滑な継承が可能になると考えます。

3 今後に向けて

「梨なびアプリ」は現在試験運用段階となっています。テストユーザとして利用したい方は、農林総合研究センター、または各農業事務所にお問合せください。

今後は、開花日・収穫期などの生育予測、「豊水」みつ症などの生理障害発生予測、チャノキイロアザミウマ・カイガラムシなどの害虫発生予測、農薬散布履歴の記録・出力など、ナシ栽培に係わる総合支援システムとして機能を拡充していきます。



野菜ニュース



大玉トマトの単収向上をめざした 環境制御技術導入の実証調査（モデル農家の育成）

海匠農業事務所 改良普及課
普及指導員 芹川 誉

旭市飯岡地区では県内有数の出荷組合である『銚子施設園芸組合』の生産者が越冬トマトを生産していますが、販売単価が下降傾向にあり単収向上が課題です。そこで全国農業システム化研究会と協力した環境制御技術導入の実証調査を実施しています。

1 飯岡地区の越冬トマトと環境制御技術

旭市飯岡地区は野菜生産が盛んな地域で、露地・施設ともに様々な品目が栽培されています。沿岸部には施設団地があり、主に温暖な気候を生かした越冬トマト（大玉）が生産されています。多くの生産者は県内有数の出荷組合である『銚子施設園芸組合』に所属し、銚子市の大型集出荷場に出荷しています。

近年、越冬トマトの単価は下落傾向にあり、営農上の大きな問題となっています。この現状を打開すべく、海匠農業事務所では他産地で単収向上実績のある環境制御技術の導入を推進するための活動を行っています。今回は全国農業システム化研究会と連携した環境制御技術導入の実証調査について御紹介します。

2 活動紹介

(1) 全国農業システム化研究会と協力した実証（環境制御技術導入モデル農家の育成）

全国農業システム化研究会は全国の研究・普及組織からなる（一社）全国農業改良普及支援協会と民間の農機具メーカーが組織する研究会で、最新の栽培技術・農機の実証をとおした営農改善に取り組んでいます。海匠農業事務所では全国で初となる施設園芸分野での実証に参加し、飯岡地区での環境制御技術を導入したモデル農家の育成に取り組んでいます。

(2) 炭酸ガス施用装置および統合環境制御機を活用した環境制御

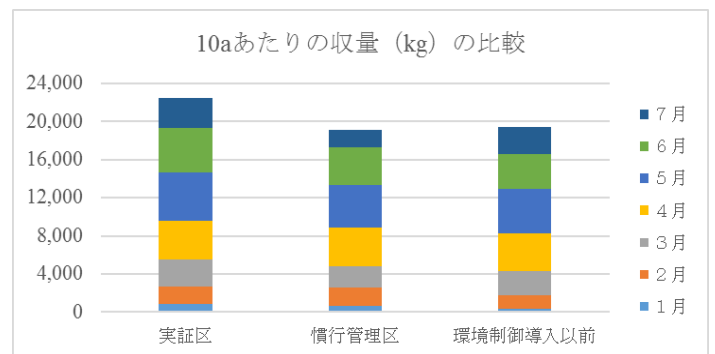
当研究会協賛企業から機器の提供を受け、(株)クボタの炭酸ガス施用機、(株)ニッポアの統合環境制御装置を試験導入しました（写真参照）。炭酸ガス施用により施設内で不足する炭酸ガスを供給し光合成促進を行い、統合環境制御機により施設内の環境データを常時モニタリングしつつ、天窓や暖房機、灌水装置の動作を制御し、トマトに最適な栽培環境に調整しました。



炭酸ガス施用機（上）と統合環境制御機（下）

(3) 環境制御技術により約15%の収量向上を達成

実証区と慣行管理区、環境制御導入前の過去実績との収量比較をしたところ、実証区では慣行区対比18%、過去実績対比15%の増収となりました（下図参照）。実証区では炭酸ガス施用により冬期の収量が増えただけでなく、トマト栽培に適した環境で管理できたことで病害発生が少なく、栽培後半まで樹勢が維持されたことで増収となりました。



実証調査の結果（令和3年6月末時点）

3 今後の取組

今後実証の目標である20%増収を達成するための課題を検証し、2作目の試験に臨みます。また、収量増加による売上げ増加と機器導入・運転に要する経費との比較を行い、経営改善効果の精査と産地への導入の可能性を検証します。

野菜ニュース



「テントロール」の開発研究及びブランド商品販売

千葉県立農業大学校 研究科
准教授 清水 敏夫

農業大学校では、天敵昆虫として一時的に飛翔を制御したテントウムシ（商品名：テントロール）を千葉県内限定で販売しています。さらに、「テントロール」を導入したイチゴ栽培からブランド商品として、「テントウムシが育んだいちごジャム」の販売がスタートしました。

1 テントロールについて

肉食性のテントウムシを飛翔制御し、「テントロール」という商品名で販売しています。「テントロール」とは、千葉県内で採集した肉食系のナミテントウ及びナナホシテントウを繁殖し、翅に樹脂を付けることで飛翔を一時的に制御しています。飛ばなくなる以外は、繁殖やアブラムシ捕食の能力に影響はありません。



樹脂は2か月ほどで自然に剥がれ、再び飛ぶことができ、自然界へ帰ることが可能となります。ナミテントウ及びナナホシテントウの寿命はおおむね6か月ほどですが、長いものでは2年近く生きる場合もあります。千葉県立農業大学校では、実用化に向け、「テントロール」を大量に生産する技術とほ場への放飼方法等を開発したほか、研究により野外で採集されたナミテントウの成虫が1年8か月生存することを確認し、比較的長い寿命であることを明らかにしています。千葉県内で採集された個体群であるため、千葉県内のほ場での使用に限定されます（特定防除資材）。なお、「テントロール」は農薬（殺虫剤）散布やトラクタの耕うん前にはほ場から卵・幼虫・蛹・成虫を救出した個体群を基にして繁殖しています。今まで命を落としていたテントウムシを活用し、使用後は再び飛べる状態になって自然に帰ることが可能であり、「命をつなぐための技術」であると言えます。

施設イチゴ栽培では、1㎡あたり2匹の「テントロール」を放飼することで、アブラムシに対し優れた防除効果を発揮します。さらに露地ほ場での利用を目指し、研究が進行中です。「テントロール」の販売価格は10匹500円です。詳細は千葉県立農業大学校（TEL 0475-52-5121）まで、お問合せください。

2 商品開発

「テントウムシが育んだいちごジャム」という商品が販売されています。この商品は、「テントロール」を導入し、栽培したイチゴを原料に、成田市の荒居農園が商品化されたものです。本製品は、酸味が心地よく強めなため甘みが引き立っており、大き目の果実が残っているのが特徴的です。大変美味で、なにより減農薬で栽培されており、安心感を味わいながら堪能できると好評です。「いちごジャム」は、成田空港第2ターミナル1階「千葉マルシェ空の駅」、なごみの米屋門前店、JA 成田市宝田農産物直売所、成田市産直組合「産直館」、千葉県立農業大学校の農産物直売などで1個500円（税込）で販売されています。「テントロール」は、高校生や大学校生の研究から開発され、その技術を活用し、彼らの活躍が見えてくるブランド商品として「いちごジャム」が販売されています。是非、御賞味ください。



頑張る産地



「観葉を楽しむ人の間口を広げたい」 (市原市) 繁樹園 井口繁樹さん

千葉農業事務所 改良普及課
普及指導員 柏崎 佑二

市原市で観葉を生産する井口繁樹さんは、経営継承後に台風の被害に遭いながらも、観葉をより多くの人に楽しんでもらえるように取り組んでいます。初めて観葉を買った消費者でも育てやすいような品目を選定し、自作のPOPで商品の魅力や管理のポイントを伝えています。

1 経営の変遷

繁樹園は、昭和40年頃に市原市で観葉生産を開始し、量販店の拡大に合わせてゴールドクレストの生産を増やしてきました。当時、土地改良で農地が集約されたこともあり、施設も規模拡大してきました。

現在の代表である井口繁樹さん(43歳)は、大学卒業後に2年間の市場研修を経て就農しました。その頃からゴールドクレストの需要が減少し始め、代わりにほかの観葉の生産を増やしてきました。

井口さんは経営移譲により、令和元年に経営主となりましたが、この年に台風の被害に遭い、今年の春にやっと修理が完了しました。

現在は、施設面積10,000㎡、家族4名、雇用(パート)6名でゴールドクレストやフィカス、ホヤ等の観葉を生産しています。



井口 繁樹さん

2 消費の変化

井口さんは数年前から、「今までよりも若い人達が観葉を買うようになった」と感じています。観葉を扱う小売店も増えていますが、新たに観葉に興味を持っている購買層は、「雑貨」、「インテリア」として観葉植物を見ているため、「園芸」として好きになってもらうことで、長く観葉を楽しんでもらいたいと考えています。

「現在、観葉は嗜好品なので、余裕がある人しか買わないけれど、植物は逆に購入して育てることで気持ちにゆとりを生み出してくれるもの。間口を広げて、幅広い人に園芸を楽しんでもらいたい。」と語ります。

3 消費の間口を広げる生産の取組

井口さんは初めて観葉を買う人でもうまく育てられるように、「マニアックではなく、育てやすいもの」を生産に取り入れるようにしています。

丁寧に全て手灌水で管理しているため、既存の品目と管理が似ている品目を選び、パート従業員でも管理しやすくすることで、良品を安定生産できるように工夫しています。



自作のPOP

また、その植物の「売り」を考え、POPを自分で作成して商品に付けています。購入後の管理のポイントや、植物が育つ様子、きれいな花が咲くことなどを伝え、消費者が興味を持ってくれるようにしています。

「植物はたくさん必要なものではないが、ひとつでもみんなに持っていてももらいたいもの。生きているので毎日の変化を楽しんでもらいたい。」との思いを胸に、井口さんは今日も観葉生産を続けています。

“千葉なし味自慢コンテスト” 開催結果

千葉県農林水産部生産振興課

7月31日(土)～8月1日(日)に習志野市のイオン津田沼店において「千葉なし味自慢コンテスト」を開催しました。今回は県内の19団体から「幸水」90点の出品がありました。1日目の専門家による厳正な審査により、上位3賞が決定されました。

コンテストに出品された選りすぐりの梨は2日目の即売会で販売され、糖度も高く品質の高い「幸水」の美味しさを消費者の皆さまに知っていただく機会となりました。

賞名	所属組合名	氏名
農林水産大臣賞	鎌ヶ谷市梨業組合	石井伸和
千葉県知事賞	船橋市果樹園芸組合	豊田大輔
農林水産省農産局長賞	柏市果樹組合	日暮茂光



一日目 審査会の様子



二日目 展示会

梨新品種の愛称決定 ～令和3年秋デビュー～

千葉県農林水産部流通販売課

日本なしの栽培面積、収穫量、産出額が全国1位で名実ともに日本一の産地である千葉県では、新品種を開発し、その愛称を決定しました。

1 愛称：「秋満月(あきみつき)」

収穫の秋、満月のように大きく実った梨に生産者と消費者の喜びと感謝の気持ちを込めて名づけられました。

2 公募期間：令和元年9月1日～12月15日

3 応募総数：5,715点

4 愛称決定までの経緯：県産農産物の流通や普及啓発、消費拡大に携わっている関係者で構成する選考委員会で、品種の特徴、親しみやすさ、インパクトなど、様々な視点から選考し、県が決定しました。

5 新品種の特徴

- ・果実が大きく、果肉は柔らかくなめらかで、果汁もたっぷり。

- ・甘みが強くて、酸味が少なく、食味はとても良い。
- ・日持ちする(常温で28日)。
- ・晩生の品種(9月中下旬から収穫できる)。



6 今後のプロモーションについて

「秋満月」は令和3年秋にデビューを迎えますが、生産量が限られているため、当面は生産者による直売を中心に販売が開始されます。県では販売開始に合わせ、「秋満月」の認知度向上と生産拡大に向けた機運の醸成を図るため、チーバくんデザインを活用したロゴマークの作成やPRイベントなどを予定しています。

「食のちばの逸品を発掘2022」の参加商品の募集

千葉県農林水産部流通販売課

千葉県と「ちばの『食』産業連絡協議会」では、地域の農林水産業及び食品産業の活性化に役立てることを目的に、県産農林水産物を原料とした加工食品のコンテストを実施します。

今年は、地域での販売のほか、量販店、百貨店、インターネット等での販売により千葉の名物を目指す「一般部門」、6次産業化の取組等、地域での販売を主とし、ローカルな名産を目指す「直売所部門」の2部門で実施します。

◆応募締切 10月1日(金)(午後5時必着)

◆応募方法 県ホームページから応募票をダウンロードし、必要事項を御記入のうえ、電子メールにて応募。

◆入賞商品への支援 マスメディア等への商品情報の提供や商談会等の出展支援を予定。「入賞して商談会時の反応が変わった」など過去の入賞者さまからも評価いただいています。

※ 詳細は千葉県ホームページを御覧ください。
多くの皆さまからの御応募をお待ちしています！
お問合せは、県流通販売課 販売・輸出促進室。
電話043-223-3085まで。

詳しくはこちら

食のちばの逸品 検索



2021 一般部門金賞
房総真鯛と黄金鯨の
お茶漬けセット“彩”
(株式会社ろくや)